

令和2年度自己評価表

【中長期目標(学校ビジョン)】

【今年度の重点目標】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取
り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

- 1
- キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
- 2
- 部活動を推進し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
- 3
- 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。
- 4
- 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。
- 5
- 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

	具体的項目	令和2年度当初			評価結果(1 0 月)		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1	キャリア教育の充実	・3年生進路目標達成は100%。第1志望での合格・内定率は、90%だった。 ・2年生の2月末における進路希望未決定者は、2%（1名）である。 ・より高い志望の実現という点では、鳥取大学A O入試にチャレンジし、見事に合格した。 ・就職1年以内の離職率が 2/33 で約6%となり、一昨年 35.3%、昨年 21.9%と比べ激減した。（県平均約16.2%）	・進路目標達成率100% ・第1志望での合格・内定率90%以上。 ・2年生2月現在の進路志望未決定者5%未満。 ・就職1年以内の離職率を県平均(参考：平成30年3月卒16.2%)以下とする。	・進路選択、進路志望決定等の場面における各種ガイダンス、事業所説明会等の充実。 ・担任や進路専任による個人面談の充実。 ・定着指導の徹底を継続する。 ・高い目標を掲げ、進路決定に主体的、積極的に果敢にチャレンジさせる指導をする。	・今年度も就職希望者を対象に校内事業所説明会を計5回実施し、鳥取県東部の12社の会社概要等を生徒に伝えて頂いた。コロナ禍で労働局主催の事業所説明会が中止となる中で、生徒にとって貴重な取り組みとなった。 ・昨年度の徹底した定着指導により、平成31年3月卒業生の1年以内の離職率は12.1%(4/33)となり、30年3月卒の18.8%、29年3月卒の35.3%と比べ、大きく減少した。 ・コロナ対策のため、「インターンシップ」が中止となり、代替の取組として、「職業探求」という取組を実施した。これは事業所の方に来ていただき、その職種について説明してもらうもので、計6職種の方に来校してもらい、生徒に職業現場の実態を間接的に伝えた。 ・今年度は、公立鳥取環境大学に3名が果敢にチャレンジする。また、今年からスタートする共通テストには、2名が出願した。	C	・今年度は、コロナ禍の影響で定着指導がほとんど実施できていない。二学期以降、機会を見つけて企業に出向いていきたい。 ・就職試験解禁が一月遅れた関係で、指導のタイミングが例年と異なる中で、粘り強く指導していく。
2	心身のバランスのとれた人間の育成	・部活動全員加入を原則としているが、年度当初時点で未加入者は2年5名、3年2名。	・全員加入の継続。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとおし、技術向上のみならず人間的な成長を支援。 ・部活動から逃避しがちな生徒に対する、継続、変更に向けた支援。	・学校評価アンケート(7月)では、部活動に真面目に取り組んでいる生徒が91.9%、部活動が社会人としての力を身につけるのに役立っていると感じる生徒が84.9%。 ・9月末段階で部活動未加入者は0名。	A	・部活動を通した人間的な成長を支援する。
	基本的生活習慣の定着	・頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ・12月の学校評価アンケートの生徒の回答をみると、7月と比べ挨拶や返事についての意識が高まっている。頭髪服装や日常生活のマナーの意識も例年と比べ高い。	・頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒の減少。 ・挨拶、返事、頭髪服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が90%以上、職員の肯定的評価が80%以上となる。 ・TEASの取組を通して、ゴミの分別・減量化やエアコン等使用電力量の削減に意識して取り組むことができる。	・日常的な指導と定期的な全体指導の充実。 ・指導ノートの有効活用。 ・生徒・保護者への丁寧な説明と適時な連携による指導の徹底。 ・各学年、授業担当者との緊密な連携。 ・TEAS研修会の実施と時宜を得た指導の実施。	・頭髪服装検査で再検査となる生徒数は例年と変わらない(10~20%)。ほとんどが軽微な違反であり、各学年で細かく指導をしていた。いる。 ・学校評価アンケート(7月)の生徒の回答をみると、校則やマナーの厳守、挨拶や返事の意識は高い(86.5%が肯定的回答)が、朝の様子を見ると自ら進んで挨拶をする生徒が年々少なくなっている。 ・歯科検診で齲歯と診断された生徒は、52名であった。そのうち、受診した生徒は14名である(10月8日時点)。未受診の生徒に対しては、個別の保健指導を実施し、受診を促している。 ・TEAS研修会を5月と10月に実施。8月末段階で教室の可燃ゴミが28%増、ガス代が86%増、水道料金が10%増、電気代は11%減であった。	B	・引き続き保健だよりや個別の保健指導を実施し、受診を促す。 ・可燃ゴミ減量のための指導を継続して実施する。
	豊かな人間関係づくり	・SNSを通した人間関係のトラブルが存在。 ・周囲への配慮に欠けた言動をとる生徒がいる。	・SNSの適切な利用、携帯電話等のマナーが定着。 ・周囲に配慮した言動ができる。 ・生徒にとって学校が安心で安全な場所である。	・全校集会・学年集会・HR等、あらゆる機会を通じて、ケータイ・スマートフォンの扱い方や、SNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・情報モラル講演会等を早期に実施。	・情報モラル講演会は、新型コロナウイルス感染防止のため、研修用DVDを用いてクラスごとに実施した。 ・学校評価アンケート（7月）の結果を見ると、生徒のほとんど(98.4%)が携帯・スマートフォンに関するトラブルが起らないよう、ルール・マナーを守っている。 ・生徒が携帯・スマートフォンに頼りすぎず、相手と直接話すことを大切にしよう集会や人権LHRなどで指導を行っている。	C	・引き続き全校集会・学年集会・HR等あらゆる機会を通じて、携帯・スマートフォンの扱い方やSNSの危険性について啓発活動を行っていく。 ・生徒の抱えている背景を理解し、生徒の変化を敏感にキャッチする。特に気になる生徒は担任、教科担任、顧問、SCさらに保護者と連携を取り、人間関係トラブルに発展しないよう速やかに対処する。

	具体的項目	令和２年度当初			評価結果(１０ 月)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
３ 主体的 学びの 支援	基礎学力 の向上	- 生徒の基礎学力の向上感は約 90%を超えているものの、客観的に高校学習水準に到達しているかどうかは懐疑的である。 - 家庭学習時間の通年平均は昨年より増加の傾向を示しているが、実態的には習慣化に至っていない。 - 現２年生では、２回目の基礎力診断テストにおいて、１回目の結果と比較してかなり成績が上昇した。	- 課題や学校での学習の分量に応じた家庭学習が継続して行われている。 - 保護者アンケートで「家庭学習が毎日１時間以上できている」に肯定的な意見が 40%以上。 １・２年生の基礎力診断テストにおいて D3 ゾーンの生徒数が年度初めより 20%以上減少する。	- リスタート学習における適切な指導。 - 家庭学習が見込まれる課題の提示と、適切な評価の実施。 - 基礎力診断テストにおいて事前事後の取り組みを行う。	- 学年と連携を図りながら各教科でリスタート学習の取り組みを行っている。授業評価アンケート(7 月)では授業を通して昨年より学力が付いたと感じる生徒は約 84%と高いものの、実情としての定着状況は不十分である。 - 家庭生活調査(8 月：平常時)における家庭学習時間の平均は 76 分で（30 分未満の生徒は約 10%）昨年同時期の平均（86 分）より減少した。また、同調査(6 月：考査期間)の平均は 153 分であり、昨年同時期の平均（165 分）より減少した。なお、学校評価アンケート(7 月)の保護者アンケート調査では「毎日１時間以上できている」に肯定的な評価は 36%であった。 - 基礎力診断テストを全学年で実施した。今年はコロナ禍で校内研修会が中止となったが、第二回目(12 月実施予定)の結果と合わせて、校内研修会を実施する予定である。	C	- 各教科・学年等で基礎力診断テストを活用して取り組みを進める。 「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。
	学習指導 の改善	- 主体的な学びに繋がる学習支援の維持ができている。 - 授業の改善や工夫の取り組み状況は、ある程度の水準を維持しているものの、まだ意識の高揚を図る必要がある。	- 授業に関する評価で肯定的な評価をする生徒が各項目とも 85%以上。 「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答する保護者が 80%以上。 - 授業の改善に関する職員評価で肯定的な評価が各項目とも 80%以上。	- ICT の活用、AL の実践などを通した学習意欲の喚起。 - 授業参観の促進や授業研修会を充実し、校内の学習指導改善の体制作りを進める。	- わかりやすく、生徒が主体的に学ぶ授業の実施に向けて取り組んでいる。生徒の授業に対する観点評価は何れもほとんどの項目で昨年度より上昇している。また、大半の職員が何らかの形で ICT を活用した授業を展開している。 - 授業参観期間を２回実施した。職員の学校評価アンケート(7 月)の「授業の改善や工夫」の設問に対する肯定的な評価は 70.6%で前年同期と比べて約 6 ポイント減少している。	C	11 月の公開授業月間の取り組みの周知を図る。 - 校内職員研修会の機会を設ける。
４ 自己肯定 感の伸長	教育環境 の改善	- 生活満足度調査ではやればできると思っている生徒が 27%いるにもかかわらず、何をやってもうまいかない気がすると感じている生徒が、10%弱いる。 - 孤立感を覚えることがある生徒は 10%弱いる。 - 岩美高版 UD を意識して効果的な指導・支援に取り組んでいる教員の割合が 72%。 (数値は令和元年 10 月の生活満足度アンケート結果による)	- 一人一人の生徒の自己実現を目指し、あらゆる教育活動の中で生き生きと活動できるように援助・支援する。 - 岩美高版 UD 意識して効果的な指導・支援に取り組む教員の割合が 8 割以上。	- 生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートを実施する。 - 生徒の自己理解、他者理解を深め、自己肯定感を高めるためのヒント等を教職員向けに情報発信する。 - 岩美高版 UD チェックリストを点検し、教職員各自が取り組みやすいように改善工夫する。	- 個人面談を随時実施するとともに、関係機関とは適宜連携を図っている。 - 生活満足度アンケート(5 月)では、やればできると思っている生徒が 34.2%（前年比+10.7%）、何をやってもうまいかない気がすると感じている生徒が 7 %（前年比+3.6%）であった。 - hyper-QU 研修会を行い、集団の中で生徒を育てるための方策を学んだ。 - 学校評価アンケート（7 月）の結果を見ると、UD を意識し授業の効果的な指導・支援に取り組む教員の割合は 76.5%と昨年度より約 7 ポイント上昇しており、取組が浸透しつつある。 - 教室内在り整理・整頓されておらず、授業に集中しやすい環境ではないと感じる生徒が 1 割（11.4%）いる。	C	- 日常の観察や情報共有を引き続き細やかに行い、生徒への援助・支援を実施する。 - 生徒の自己肯定感を高めるための講演会と職員研修会を 11 月に実施予定。 - 引き続き UD を意識した指導・支援、教育環境づくりに取り組む。 - 生徒に整理・整頓の徹底を促し、集中しやすい学習環境を整えるよう指導する。
５ 地域と 連携した 学校づくり	岩美町との 効果的な 連携	- 地域と連携した活動に対し概ね理解が得られている。 - 岩美町内の資源や人財等の活用が大いに図られている。 - 岩美町配置の地域連携コーディネーターが廃止	- 地域連携、地域貢献の取組を通して、生徒が、自らが居住する地域を支える存在であることを自覚する。 「地域に貢献したい」と思う生徒の割合が全校の 8 割以上	- 岩美町役場等との効果的な連携を図る。 - イワッツミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保する。	- 岩美町役場および岩美町観光協会等と連携をすすめ、地域の方々の協力のもと、地域学習が実施できている。 2 学年のイワッツミッションでは、類型の特徴を生かした 8 グループを編成し、地域課題について取り組んでいるところである。 - 昨年からの継続事業であるハローイワッツ(英語塾)に 12 名が参加している。 - 今年度の新企画である岩美町公営塾(HOPE)を 8 月に実施予定であったが、鳥取県版新型コロナ警報が発令されたため中止した。 - 岩美まちづくりの会との意見交換会を実施し、本校の現状について情報共有するとともに、ますますの協力を依頼した。	B	- イワッツミッションを通じて自己がどう変容したのかを事前事後アンケートを用いて確認し、今後の取組に生かす。 - 生徒の活動の振り返りおよび地域協力者への報告の場として、3 月に成果発表会を設ける。 - 岩美町公営塾(HOPE)を冬季休業中に実施できるよう再調整する。
	授業・部活動等 を通じた 地域連携の 実施	- 地歴、体育、農業、福祉の授業、陸上競技部、野球部、ソフトボール部、バレーボール部、茶道同好会、吹奏楽部が地域と連携した取組みを実施。 - 町内事業所の校内企業説明会の実施。	- 参加した生徒の自己有用感が向上し、人間的に成長する。 「地域の行事や活動に参加（授業を除く）した」延べ生徒数が学校の生徒数以上 - 毎年 1 ～ 2 名の地元町内企業や事業所への就職者を増やす。	- 生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。 - ホームページ掲載、報道機関への資料提供など情報発信に努める。 - 昨年度実施した地元企業説明会を今年も継続して実施し、参加企業を増やす。	- 主に地歴、農業や体育の授業、総合的な探究の時間を通じて、地域の方との交流が図られている。 - 報道機関への資料提供に努め、生徒の活動を広く発信している。 6 月に町内事業所の校内企業説明会を実施した。 - 感染症拡大防止の観点から、地域と連携した取り組みが実施できなかった（吹奏楽・茶道）。 - 女子バレー部の地域連携奉仕活動は 5 月と 10 月に実施できた。	B	- イワッツミッションでのより一層の連携協力を図る。 - 授業、部活動を通しての連携について社会情勢を判断しながら実施の機会を探る。

評価基準

A：十分達成 [100%]

B：概ね達成 [80%程度]

C：変化の兆し [60%程度]

D：まだ不十分 [40%程度]

E：目標・方策の見直し [30%以下]